

1 趣 旨

現行の環境基本計画は令和4年度からスタートしており、今年度に行う点検評価が、本計画における初めての点検評価となる。点検評価を行う前に現時点での考え方を環境審議会に報告する。

2 現状の課題、対応方針

(1) 現状の課題

評価方法及びその表現が複雑化して、市民にとってわかりづらくなっている。

(2) 対応方針

- ア 市民に分かりやすい点検・評価結果の表現に変更
- イ 複雑化している評価方法を再整理し、よりの確な評価方法を検討

3 具体的な見直し案

(1) 現行

指 標	点検・評価方法
基本目標に係る指標(目標あり)	①過去5年の推移(グラフ) ②目標達成・未達成 ※未達成の場合、さらに改善・現状維持・後退・増減の傾向を区分
基本目標に係る指標(目標なし)	①過去5年の推移(グラフ) ②改善・現状維持・後退・増減の傾向を区分

(参考) 現行の記載方法

現況年度 (2013年度)	2017年度	2020年度	傾向	評 価
15,772	15,494	15,161		わずかに削減傾向にあるものの、2020年度は2013年度比で3.9%の削減に留まり、13%削減の目標に届きませんでした。 目標値(2030年度) 温室効果ガス排出量 13,677千t-CO <sub>2</sub>

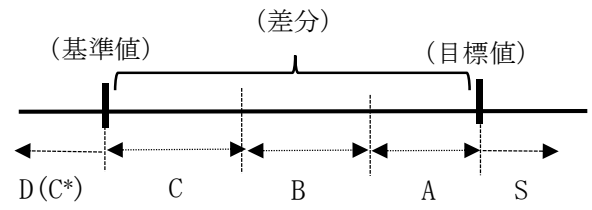
(2) 見直し案

指 標	点検・評価方法	見直しの考え方
「環境の柱」に係る指標	①過去5年の推移 ②進捗状況を5段階評価	・以下の方法により、市民に直感的に訴えかける表現にする ・進捗状況を的確に把握するため、基準値及び目標値に対して現状がどの位置にあるのか明確にすることが重要 →現状の数値の進捗状況を原則5段階評価(S～D)で表現 ・過去5年の推移を表すグラフに対して「増減」等の場合分けがあり難解 →数値の推移はグラフを一見すれば判断できるため、これを廃止
「基本目標」に係る指標		・取組みの進んでいる分野と不十分な分野が一見してわかるよう 総合評価としてレーダーチャート化して計画全体の進捗状況が見える化

4 具体的な評価方法

- 目標の設定状況により評価方法を3つに分類

(1) 基本形

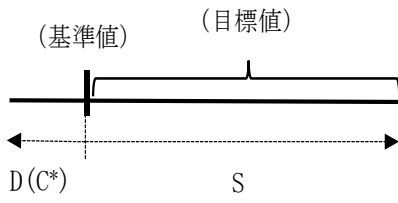


- 基準値、目標値に対して当該年度の実績値がどの位置にあるかにより評価を区分

- 各評価区分及び範囲は以下のとおり

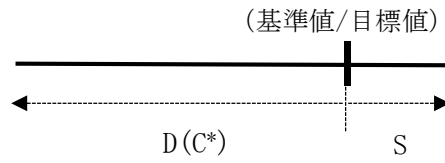
区分	範 囲
S	目標値以上
A	基準値+差分の60%～目標値
B	〃 30%～60%
C	〃 0%～30%
C*	基準値以下だが、特殊な事情や今後改善することが見込めるもの
D	基準値以下

(2) 目標が「向上」「減少」の場合



- 目標が具体的数字でない以上、複数段階での評価は困難
- 基準値を上回った時点で「S」とするが、下回った場合は(1)と同様に「D」又は「C\*」とし、目標達成の難易度とのバランスを図る

(3) 目標が「現状維持」の場合



- (2)と同様

5 点検・評価結果の表記について

- 指標ごとの点検・評価を環境白書や環境審議会に報告する際は下記のように取りまとめる。
- コメント欄については関係課に照会を行い、その年の取組み内容、現状値及び過去推移等を文章にて記載。

環境の柱1の指標 温室効果ガス排出量[万t-CO<sub>2</sub>]

目標値 (2030年度)	1,012	【過去推移】 	進捗度：A	(前回) B
現状値 (2018年度)	1,368		コメント……	
前年度 (2017年度)	1,444			
基準年度 (2013年度)	1,578			

6 総合評価の表記について

- 全体の総合評価として環境の柱毎にS～Dの評価を点数化(※S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、C\*=1点、D=0点)
- 得点率を基に五角形のレーダーチャートを作成

指標	指標の数	結果別評価数					配点 (a)	得点 (b)	得点率 (b/a)
		S	A	B	C	D			
環境の柱1	1		1				5	4	80%
基本目標1-1	5			1	4		25	11	44%
基本目標1-2	2		1	1			10	7	70%
小 計	8	0	2	2	4	0	40	22	55%

進捗度総合評価

